

友好の「絆」と「連携」を確認



友好市町の南あわじ市



姉妹町村の北中城村

その後、葛巻高原加工株式会社に移動し、山ぶどうの栽培やワイン製造の一連の工程などを研修しました。

その後、葛巻高原加工株式会社に移動し、山ぶどうの栽培やワイン製造の一連の工程などを研修しました。

11日は、昨年度改修した総合運動公園を視察。南あわじ市では、サッカー競技などを行える運動場を整備したい声があり、補助金などを活用して工事を抑えた工事内容の説明に関心を示していました。

両市町間の絆を葛巻の地で確認

6月下旬には、北中城村から、町三役と議員全員に、かりゆしウエアが

7月定例会議初日の1日と、一般質問を行った4日、最終日の6日の3日間、全議員と鈴木町長ほか当局職員が、「かりゆしウエア」を着用して議会に臨みました。白や紺、花柄など色とりどりの姿で、議場は華やかな雰囲気になりました。

町は、平成元年に沖縄県北中城村と姉妹町村を結び、職員間の交流や中学生の文化交流、スポーツや物産の交流などを行ってきました。

議会でのかりゆしウエアの着用は、北中城村との友好の絆を深めようと中崎議長が提案し、議員と町長から賛同を得て実現しました。

かりゆしで議会 議場が華やかに



森のこだま館（上）、畜産バイオマス発電施設（下）を視察する南あわじ市議会の皆さん

同日の夜には、町議会主催の歓迎会がグリーンテージで行われ、議員のほか鈴木町長や町の関係者が参加。中崎議長は、「物産交流を通じて、お互いの市町の発展につなげるために、友好の契りを深めていきましょう」と歓迎し、鈴木町長も「昨年は南あわじ市合併10周年記念式典に出席し、さらに親戚の縁が深くなったと感じます」と歓迎しました。

翌日は、町の酪農やぐまき高原牧場の取り組みを視察。「新葛巻型酪農構想」やくまき高原牧場の6次産業化の取り組みを研修しました。南あわじ市はタマネギの生産で有名ですが、高品質の「淡路ビーフ」が全国ブランドに成長するなど、畜産業も盛んです。

贈呈されました。このかりゆしウエアは、北中城村議会の比嘉義彦議長が、一人ひとりに似合う色とデザインを選んだものです。とてもすてきなプレゼントをいただき、北中城村の思いに感謝しています。議会では、9月定例会議でも着用したいと考えています。

3年後には、盟約締結から30年の節目を迎えることとなります。議会では、これまで視察研修などを通じて、北中城村との交流を深めてきました。今後もこの縁を大切に、両町村の発展のために、様々な場面で交流を深めていきます。



かりゆしウエアで議会に臨んだ、町長、議員ら